



信金中央金庫
SHINKIN CENTRAL BANK

地域・中小企業研究所
ニュース&トピックス
(2016. 11. 22)

〒103-0028 東京都中央区八重洲1-3-7 TEL. 03-5202-7671 FAX. 03-3278-7048
URL <http://www.scbri.jp> e-mail : s1000790@FaceToFace.ne.jp

2016年9月末までの信用金庫の個人向け貸出動向
住宅ローンの寄与が大きく2.7%増と高い伸びを維持

井上 有弘

ポイント

- ▶ 本稿では、全信用金庫の集計値にもとづき、2016年9月末までの個人向け貸出動向を概観する。
 - ▶ 全国の信用金庫の16年9月末の貸出金残高は68.1兆円であり、うち個人向け貸出は19.6兆円、28.7%を占めている。伸び率は、16年9月末で前年同月比2.7%と、2%台後半の伸びを維持している。構成比の高い住宅ローンは伸び率も高く、個人向け貸出の増加に大きく寄与している。
 - ▶ 住宅ローンについて、新規実行額と返済額に分解して推移をみると、新規実行額は16年度には2.1兆円程度にまで増加すると見込まれる。返済額も高い水準で推移しているが、低金利の長期化を背景とした新規実行額が上回り、住宅ローン残高の積み上げをもたらしている。
 - ▶ 消費性ローンの増減率は、信用金庫、国内銀行とも10年度頃から急回復している。10年には貸金業者に対する「総量規制」が導入されており、同規制の対象外である信用金庫や銀行の消費性ローンの増加には、こうした制度要因による貸金業者からのシフトも影響していると考えられる。
- ※ 本稿の計数は、11月15日時点のものであるため、今後修正される可能性がある。

本稿では、全信用金庫(265 金庫)の集計値にもとづき、2016年9月末までの信用金庫の個人向け貸出金動向を概観する¹⁾。

1. 個人向け貸出金の動向

全国の信用金庫の16年9月末の貸出金残高は68.1兆円であり、うち個人向け貸出は19.6兆円、28.7%を占めている(図表1)。このうち住宅ローンが16.4兆円と個人向け貸出の約84%を占めている(図表1)。このほかカードローン等で0.6兆円、その他で2.6兆円の残高がある。なお、その他には、定義上、カードロー

ン形態ではない消費性資金や割賦返済ではない住宅向け資金などが含まれている。

個人向け貸出全体の伸び率は、16年9月末で前年同月比2.7%と、2%台後半の伸びを維持している。内訳をみると、構成比の高い住宅ローンは伸び率も高く、個人向け貸出の増加に大きく寄与している。大幅な減少が続いていた住宅ローン以外についても、10年代に入って急回復し、カードローン等は13年度に、その他も15年度にプラスに転じている(図表2、3)。

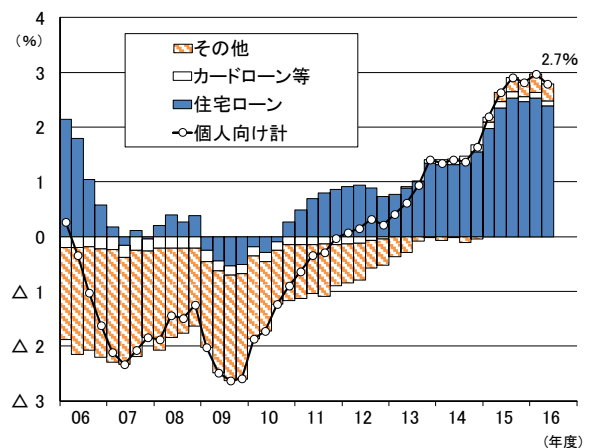
(図表1) 信用金庫の個人向け貸出の概要

(単位: 億円、%)

	2016年9月末		前年同月比		
	残高	構成比	増減額	増減率	寄与率
個人向け貸出計	196,082	100.0	5,319	2.7	100.0
住宅ローン	164,399	83.8	4,568	2.8	85.8
カードローン等	5,937	3.0	165	2.8	3.1
その他	25,745	13.1	584	2.3	10.9

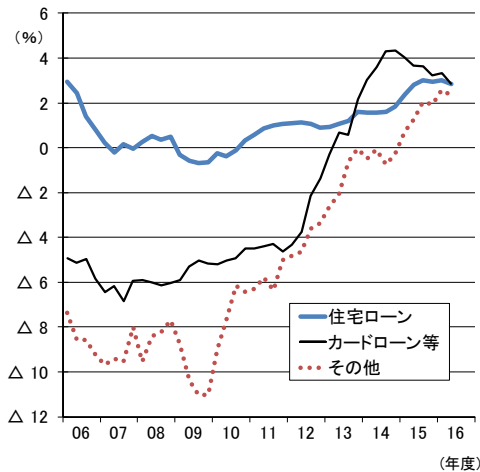
- (備考) 1. 日本銀行「業種別貸出金調査表」にもとづき信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成
2. 個人向けは、原則として個人に対する非事業性の資金
3. 住宅ローンは、個人に対する設備資金のうち割賦返済(2か月以上にわたり、かつ3回以上に分割返済)するもの
4. その他は、個人向けから住宅ローン、カードローン等を除いたもの

(図表2) 個人向け貸出の寄与度分解



(備考) 信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

(図表3) 個人向け貸出の内訳の増減率の推移



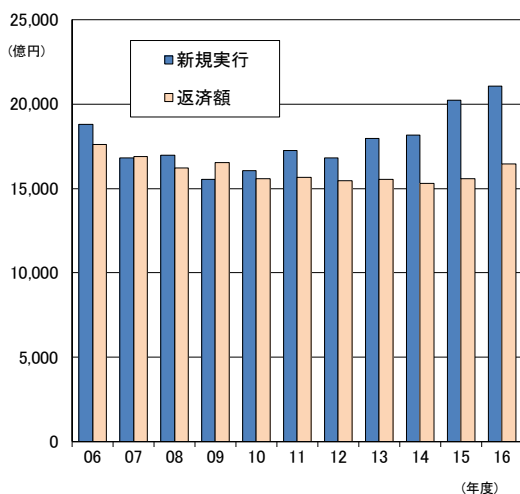
(備考) 信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

2. 住宅ローンの新規実行の動向

足元で06年度以来の高い残高伸び率を示している住宅ローンについて、新規実行額と返済額²に分解して推移をみる(図表4)。年度中の新規実行額は、09年度には1.5兆円程度であったが、量的・質的金融緩和が導入された13年度以降は増勢を強め、マイナス金利導入後の16年度には、2.1兆円程度(上期中実績の2倍と仮定)にまで増加すると見込まれる。

返済額も既存ローンの他行・庫への借換えなどもあって高い水準で推移しているが、低金利の長期化を背景とした新規実行額が上回り、住宅ローン残高の積み上げをもたらしている。

(図表4) 住宅ローンの新規実行・返済額の推移

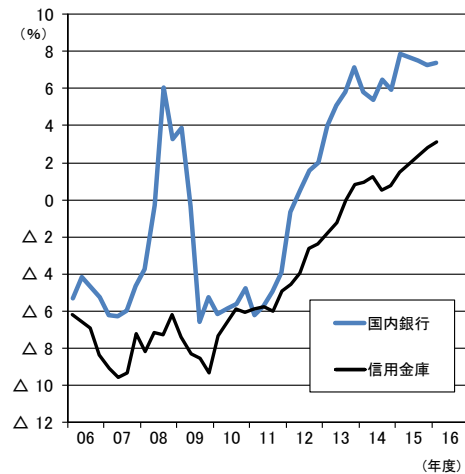


(備考) 1. 信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成
2. 2016年度は、上期中実績の2倍と仮定

3. 他業態の消費性ローンの動向

消費性ローン(個人向け運転資金)³の増減率は、信用金庫、国内銀行とも10年度頃から急回復している(図表5)。

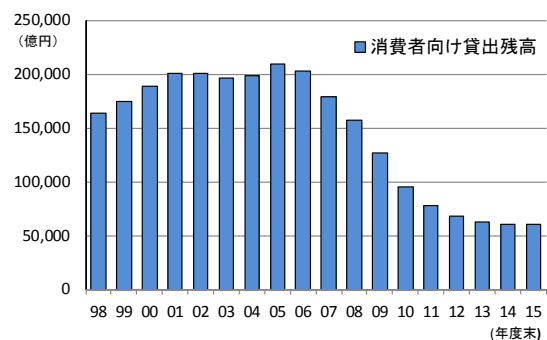
(図表5) 消費性ローンの増減率の推移



(備考) 日本銀行資料より信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

一方で、貸金業者による消費者向け貸出残高は、貸金業法改正(06年12月)前のピークである05年度末の3割以下にまで減少している(図表6)。さらに、10年には貸金業者に対する「総量規制」⁴が導入されており、同規制の対象外である信用金庫や銀行の消費性ローンの増加には、こうした制度要因による貸金業者からのシフトも影響していると考えられる。

(図表6) 貸金業者による消費性ローンの推移



(備考) 金融庁資料より信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

以上

¹ 信用金庫の企業向け貸出金の動向については、ニュース&トピックス No. 28-52(2016年11月7日)を参照

² 返済額は、前期末残高+期中実行額-当期末残高により算出し、償却等は考慮していない。

³ ここでは、国内銀行との比較のため、個人向けの運転資金を消費性ローンとした。

⁴ 貸金業者からの借入残高が年収の3分の1を超える場合は新たな借入れができなくなるなど、過剰貸付を抑制する規制